琉球大学学術リポジトリ

単飼ケージと群飼ケージ　ーカリフォルニアの試験から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20434

単飼（シングル）ケージと群飼（コロニー）ケージ

カリフオルニアの試験から

バタリー養鶏の発達についで、最近あちこちにケージ養鶏が高まりつつあります。

タイプもいろいろありますが、風通しがよく、清潔で見るからに「鳥かご」を思い出します。

米国のニュー　ジャージィー州で発行されているポウルトリー・ダイゼスト(養鶏読本)によりますと、卵価が安い場合は単飼ケージの方が利益が多く、高い場合は群飼ケージの方が有利であると発表しています。

単飼ケージとは読んで字の如く１羽飼のケージの事で復飼は２羽飼を意味します。

群飼ケージでは１つのケージに10羽位収容するのが普通です。またこの試験に用いられた単飼ケージの幅は約7寸5分で、復飼ケージは約1尺です。

この比較試験はカリフォルニア州立工芸大学で行われたものですが、これからふえつつある沖縄のケージ養鶏に参考になる点もあると思われますので紹介することにします。

◉群飼ケージと単飼ケージはどちらが有利か？

△群飼ケージの利点

○ニワトリ１羽当りの資金が割に少い

○土地を多く必要としない

○ニワトリ１羽当りの労働時間が少い

○労働節約機械の使用に経済的に有利である

△群飼ケージの欠点

○しりつつきや弱者いじめが多い

○ハエのたかりが多い

○ニワトリの死亡率や淘汰率が高い

○卵の生産率が比較的に低い

試験に用いられたニワトリは、５月にふ化され、10月に産卵用ケージに移されました。これらのニワトリの数は1.200羽で、単飼、複飼、群飼の各ケージに同数ずつ収容されました。

試験はニワトリのふ化後、１５６日目から４３６日目までの280日間にわたって行われました。

日令１５６日から４３６日までの成績

	単飼ケージ（7.5寸幅）	復飼ケージ（10寸幅）	群飼ケージ（10羽飼い）
産卵率	71.76%	70.06%	67.73%
卵１ポンド生産するのに用いたエサの消費量	3.139ポンド	3.226ポンド	3.414ポンド
死亡率	7.00%	11.61%	18.33%

上の表によりますと、単飼ケージの方が群飼ケージよりもすべての調査項目においてすぐれていることがわかります。即ち、産卵率やエサの利用率が高い上に、死亡率が低い。次にいいのが複飼ケージで、群飼ケージは３つの中、３位です。

また、表にはありませんが、単飼ケージと群飼ケージをいろいろな点で比較試験した結果、群飼ケージは１羽当りの資金と労働時間が少いことがわかりました。しかし、死亡率においては単飼ケージの約３倍も高い。売却された淘汰鶏は群飼ケージでは死亡率が高いために、単飼ケージよりも１羽につき約５セントも安いようです。

また、１ダースの卵の生産コストを調べたら、単飼ケージの方が約 1.3セントも安く、効果的でありました。

卵価が高い場合には群飼ケージの方が利益はより多かった。例えば１ダースの卵の利益が８セントになった時群飼ケージは単飼ケージよりも 1.000ドルの資金につ

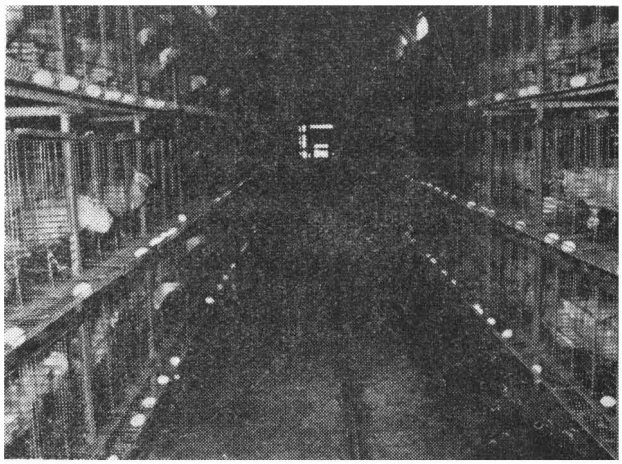
き、1.96ドルも多くの利益をあげました。

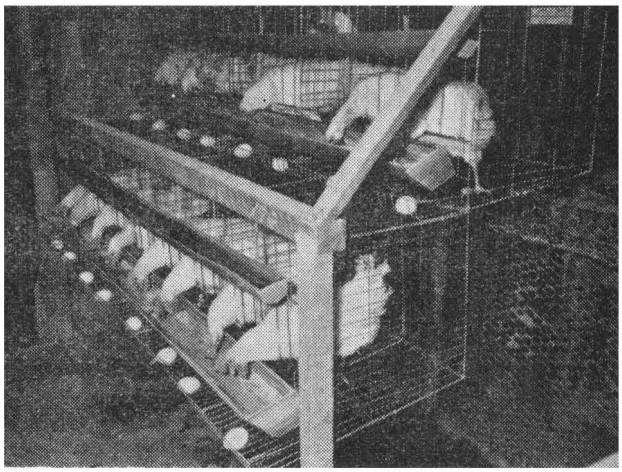
単飼ケージでは、1.000ドルの資金につき、1ダースの利益が2セントの場合は45.27ドル、4セントの場合は33.39ドル、6セントの場合は9.83ドルも群飼ケージよりも多くの利益をあげました。

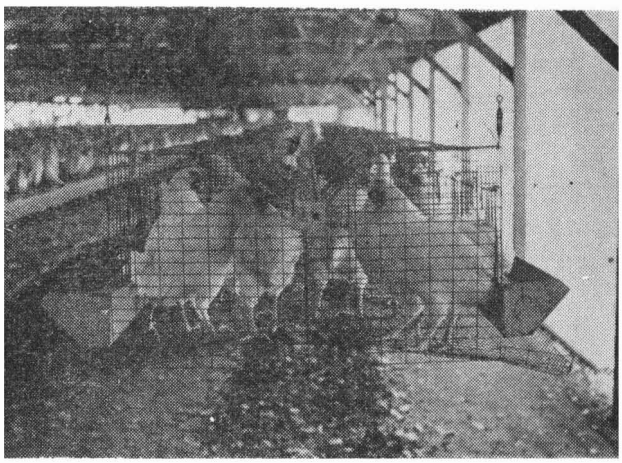
この試験の結果をかいつまんで申し上げますと、卵価が安くて利益が少い場合、たとえ少数羽のニワトリをかかえていても、単飼ケージの方が利益が多く、反対に卵価が高い場合には群飼ケージの方が有利であるということです。

なお、この比較試験によりますと、1.000ドルの資金につき群飼ケジーならば222羽も飼養することができますが、単飼ケージでは167羽しかできないとの事です。

（古　謝　瑞　幸）







右の写真は本文の試験に使われたものではありませんがケージ紹介のため出してみました。

◎　上は六、〇〇〇羽の産卵鶏をもつ糸満町玉城養鶏場の四段式単飼ケージの一部です。「ケージは通風や採光がよくニワトリの健康に非常にいい。いろいろ改善されたが、いちじるしくよくなったのは破卵が減ったことと、作業の能率が上ったことです。更にニワトリの死亡率が低くなりました。ずっと前から島産の配合飼料を使っていますが産卵率はいいし、ニワトリのしりつつきが全々ありません（産卵ケージに移す前は密飼）」と玉城さんは語った。

◎　中の写真も単飼ケージですが鶏糞は地面におちるようになっています。（那覇市松川にて）

◎　下の写真は三羽飼ケージです。カリフォルニヤ州　アーメイダ郡の農家でとりました。台風の心配もなく広々と簡単につるしてあるのも沖縄と異った点です。